

# 一刀領談

本紙客員論説委員 下條正男



しもじょう・まさお 長野県出身。国学院大学院博士課程修了。1999年から拓殖大教授を務め、昨年3月末で退官。現在は本

紙客員論説委員のほか、島根県立大と東海大の客員教授。島根県の第5期竹島問題研究会の座長を務める竹島研究の第一人者。72歳。

8日に逝去した英国の工リザベス女王の国葬とは対照的に、安倍晋三元首相の国葬が急に色あせてしまった。選挙遊説中の元首相が銃撃されるといふ衝撃的な事件に遭遇し、岸田文雄首相は安倍氏の国葬を決めたようだが、その決断が今、国論を二分している。

国葬を決めた手続き上の問題と、安倍氏を襲撃した容疑者の犯行動機が、安倍氏と関係が深いとされる世界平和統一家庭連合(旧統一教会)に対する「恨み」にあつたからだ。容疑者の母親が入信し、多額の献金をしたことで自己破産を余儀なくされ、家庭が崩壊した恨みである。

それが自民党内の問題に発展したのは、旧統一教会と自民党議員たちの浅からぬ関係が露呈したからだ。そこで自民党は党の国会議員と旧統一教会との関係を点検し、今後「関係を一切断つ」と宣言した。

## ■生殺与奪権握る

だが、それは簡単ではない。選挙の際は、宗教団体の組織票が議員たちの当落にも影響を与えていたからだ。そのため選挙協力を得れば、特別な関係も生じてくる。それもボランティアで選挙運動に協力してくれどとなれば、候補者にはこれほどありがたいものはない。逆に言えば、宗教団体の組織票は、自民党議員の

## 国葬と旧統一教会



27日の安倍晋三元首相の国葬に向け、羽田空港で警備犬とともに警戒する警察官ら=13日午前

# 「謝罪の連鎖」断ち切れ

生殺与奪権を握っているといつことになる。

とはいえ、ただほど高いものはない。現に統一教会の教祖文鮮明氏の説教集である『天聖經』には、「私は日本の国会議員たちともたくさんのかかわりをもっています」「私と関係のある人がおよそ百八十人はいます」と記されている。

それは文氏が「世の中の政治家たち、世界で最高に有名な学者、言論人、経済人、有名な人々をすべて連結する」ことで、統一教会が目指す宗教的世界を「この世」に実現しようとしていたことを表す。

## ■歴史問題と同じ

今回の事件では、日本の信者だけが霊感商法にかかわり、法外な献金を行って

いた実態が浮き彫りにされた。統一教会との関係を断つても、被害者の救済にはつながらない。

日本の信者だけがなぜ霊感商法にかかわり、多額の献金をしたのか。それは文氏の『天聖經』を読めば理解ができる。統一教会は、キリスト教では行わない祖先崇拜を重視し、氏族や族譜などを尊重するなど、朝鮮半島特有の習俗を教理の一部にしているからだ。氏族は金氏、朴氏など共通の祖先を持つ血縁集団で、父系を中心にその系譜をまとめたものが族譜である。

そのため、統一教会では「先祖を崇拜して先祖に祭祀を執り行うのは悪いことでは」なく、「後代の後孫は、先祖たちのすべての過

ちを償わなければならぬ」としている。これが信者個人から国家の過ちとなると、「日本は中国と争い、ソ連とも争い、韓国を占領しました。みな日本を怨讐の国だと考えます」との歴史認識になり、日本は「サタン(悪魔)の国」となる。

そこで教祖が、日本人信者に「私は、日帝の下で当時の日本にも恨みがあつたのです。しかし、日本はすでに敗者でした。天は、滅びる者をさらに打つことは

しません。自分の罪を白日して、謝罪する者に対しては、哀れみを持って対するのです」と説けば、贖罪意識が刺激される。その日本の信者に、謝罪と多額の献金を求めるのは、統一教会では「日本はすべての物質を收拾して」「韓国の前に捧げなければならぬ」としているからだ。これは、日本に謝罪を求め続ける韓国の「歴史問題」と同じ論理である。

安倍氏の国葬は、日本政府が国葬と決めた時点で、既に日本の国内問題ではなくなっている。ならば国葬を通じ、統一教会が日本人信者に植え付けた贖罪意識を断ち、韓国側が求め続ける謝罪の連鎖を断ち切ることで、政治の役目である。